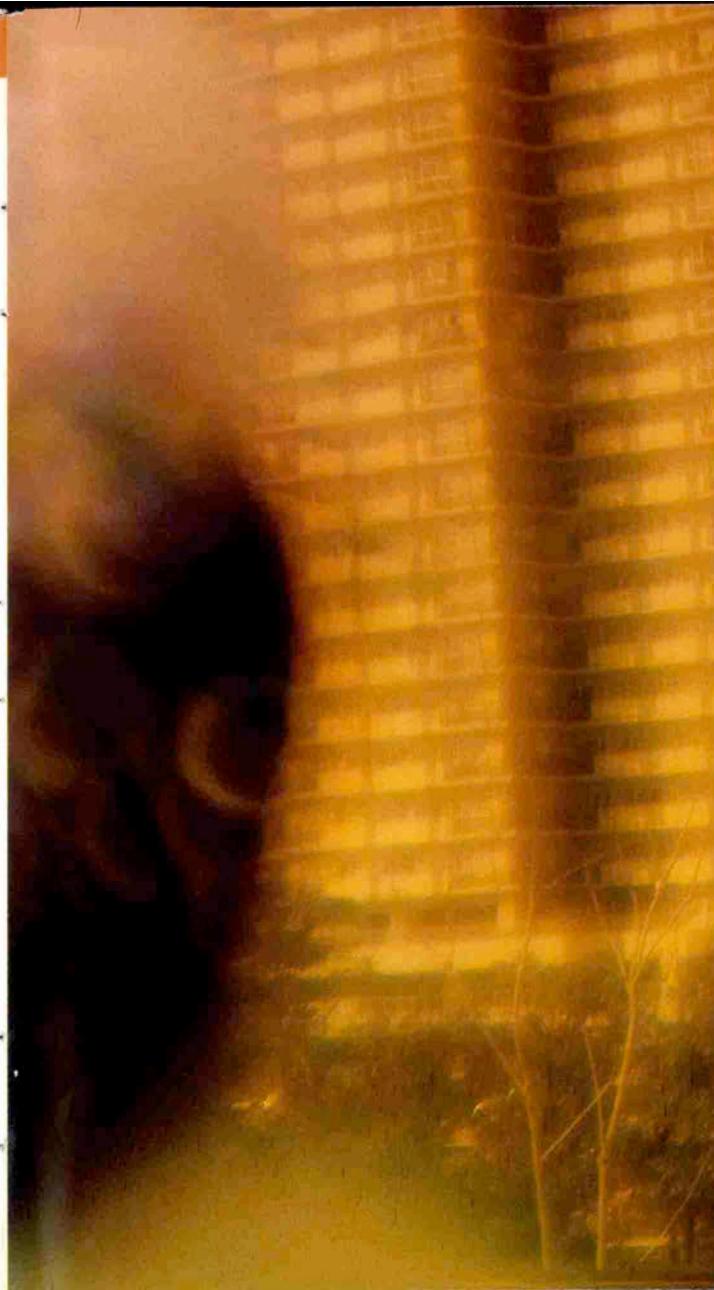
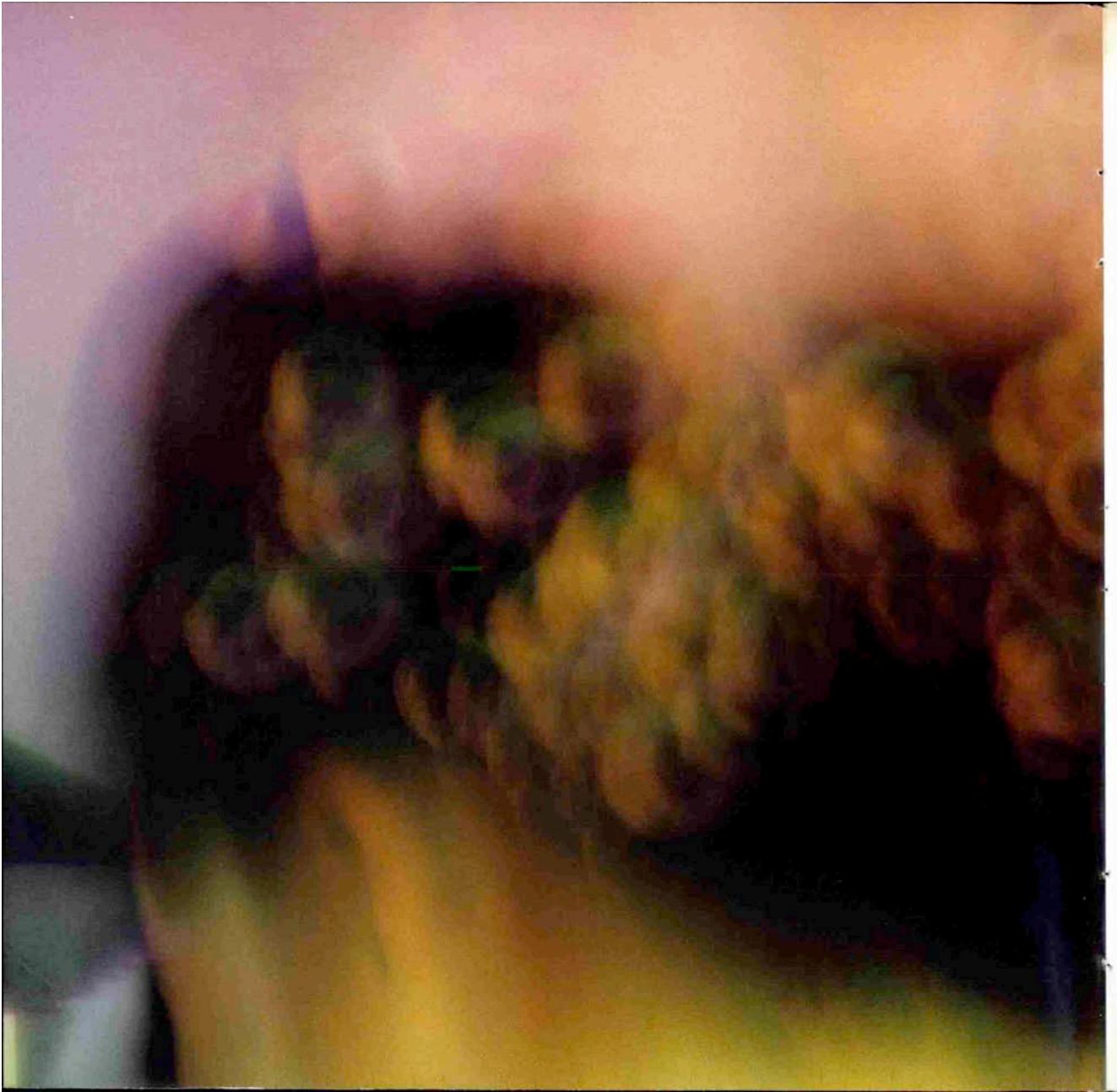


KOBE MONOGATARI

神戸の物語

緒方しげを NO. 16







どうしたのでしょうか。春の夜に
鹿鳴館のざわめきが伝つて来ます……。

・木下真珠では、カジュアルからフォーマルまで、この春の
装いのための各種真珠・ジュエリーを取り揃えています。

WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls
KINOSHITA
PEARL
CO.,LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)
TEL (078)221-3170
10:00AM~6:00PM(無休)

ときめき 4月
真珠の輝き



真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服



きんちかシティエレガンス／神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎(078)391-3886

本社／神戸市中央区元町通6丁目7番8号明邦ビル ☎(078)341-8041代

甲子園店／甲子園球場南・阪神パーク隣 ☎(0798)48-5218

若いほど、 ティーステイにね。

シブヤにもない、ウメダにもない。ビギ
の新スペース、"ビギスタイルコレクショ
ン"が誕生です。ブティックというお決
まりの枠を外して、流行の先端をきつて
いるファッションが広い、広い売場に並
ぶ、これは日本でははじめてのこころみ。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

新しいのに、懐かしい。

中には、ピンクハウスとカールヘルムが寄りそつ金子功の世界をはじめ、セツトアップ、D・グレース、モガ、メンズメルローズなど14のブランドが素晴らしい宇宙で輝いています。もうひとつの話題は、ビギグループがプロデュースしたティールーム「ラ・ボム・ベール」。彼といつしょに、さあ、若いハート感じてください。

■2階ビギスタイルコレクション



海の見える白いチャペルで“ウェディング”

御結婚披露宴・

各種パーティー

好評予約受付中



海を見ながら、神戸ならではのファッショナブルなブライダルは、恋人たちの夢。
白亜のチャペルに続くホールでのご披露宴や、劇場を利用した世界で初めての
シアターウェディングなど、感動的シーンの演出を心がけています。
カリヨンの音色に祝福されて、慶びもいよいよクライマックスに――。

ゴーフル ポートピア88
神戸 月堂 港島

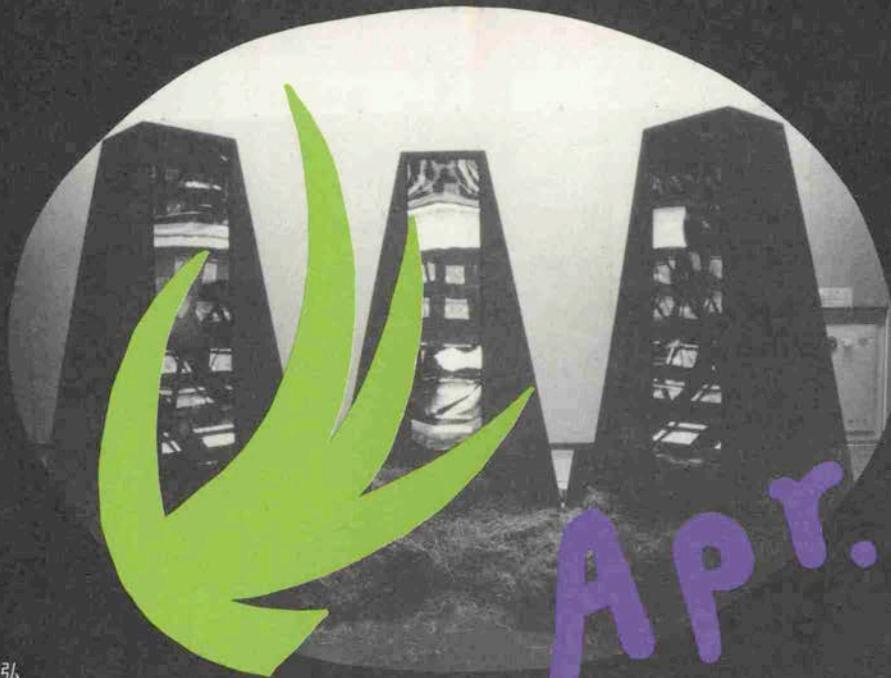
〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

本社／〒650 神戸市中央区元町通3丁目3番10号 ☎(078)321-5555

ミナトニ ゴーフル

ゴーフル ポートピア88
ポートライナー中埠頭駅前
(ゴーフル白いチャペル前)





ビデオアート / 山口勝弘

4月号目次 ● 1987. No. 312

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

表紙 / 小磯良平

セカンドカバー / 中西勝

神戸っ子'87 / 天藤久雄・吉岡美恵子

ある集い / ①ザ・ファッショングループ②K・F・C

コウベスナップ / インボートフェア・大丸神戸店新装オープン

美の小箱 / ④河崎晃一 / 文・乾由明

神戸の物語 / カメラ・緒方しげる

わたしの意見 / 鳥居幸雄

隨想 / 山西史子・田中美和・細川勝

連載エッセイ / 三枝和子・カット / 元永定正

こうべな旅 / 岡部伊都子・カット / 石阪春生

Kobe 音楽夜話 / 24 / 宝塚とシャンソン・中元清純

座談会 / 「神戸七福神」でハッピーライフ

吉田智朗・小池義人・津田信基・井上仁性・加藤隆久・

伊藤淨斎・永岡大純・中西勝

地域文化論 / 武田則明

(特集)トーカタウン / ①メリケンパーク②元町大丸前③三

宮④ポートアイランド⑤北野町

経済ボケットジャーナル

キャバーベーン座談会 / 「今、神戸ファッショニヨンの原点を見直す」川上勉・木口衛・細川数夫・小田信義・荒津正美

宝塚対談 / 春日野八千代・平みち・杜けやき

珈琲飲みながら / アキコ・カンダ・但馬久美

話題のひろば / ①ホテルオーランド神戸起工式②街造りシン

ボジウム③笑いの「粒」を日本一に④ オールスタイル

KOBEMODERN / ファッショニヨンスポット

ファッショニヨンウォッチング / ①神戸と帽子・平田和子(II)

コーヒーブレイク

動物園育日記 / 亀井一成

小山乃里子の華麗なる男のインタビュー / 楠松奎二

神戸の集いから / ブロフェッサーアPの研究室 / 岡田淳

スポーツエッセイ / 小笠原博

ルックスボーッ

有馬歳時記

湊川通信

出会いの旅 / 丹波の美酒 / 但馬の方々・村上和子

神戸を福祉の町に / 橋本明

KOBE MODERN CULTURE

シネマ試写室 / 淀川長治

神戸百店会だより / びつといん

ボケットジャーナル

神戸・発見 / ④ポートビアランド / 森下悦伸

連載小説 / 矢口耕一・カット / 谷口和市

KFSニュース

兵庫県立近代美術館 / 芸術の都バルセロナ展
KOBEMODERN / ハイカラ文化史 / ② / 鈴木正幸・鈴木正幸
海・船・港 / カリフォルニア州立商船大学練習船初入港
メラ / 米田定蔵・池田年夫・松原卓也・坂上正治

第6回

KOBE CLASSICS MOVIE FESTIVAL

PART II

甦るあの感動、あの楽しさ



4/25(土)～5/8(金) アカデミー賞 8部門受賞
マイフェアレディ 10:00 1:00 4:00 7:00
5/9(土)～5/22(金) ジュディー・ガーランド主演
オズの魔法使い 11:25 1:20 3:15 5:10 7:05
5/23(土)～5/29(金) ヴィンセント・ミネリ監督
巴里のアメリカ人 10:45 12:50 2:55 5:00 7:05

特別鑑賞券発売中

一般1,200円 学生1,100円
3番組通しの回数券3,000円
(当日一般1,500円 学生1,300円)

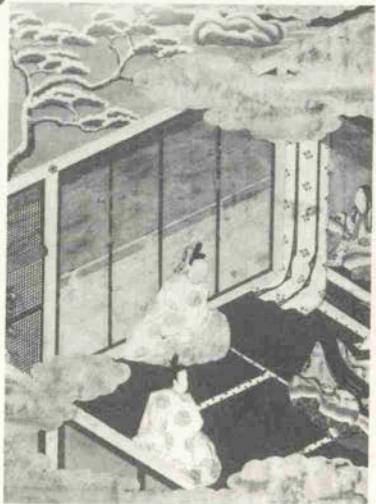


神戸新アサヒ劇場

三宮、中央区役所北側
078-251-9877

物語絵 TALES OF JAPAN

THE NEW YORK
PUBLIC LIBRARY
COLLECTION



4月11日(土)～5月24日(日)
入館料 10時～17時 (入館は16時半まで)
一般 500円 月曜休館
小中生 600円 (当日700円) 5%
アメ横 200円
市立博物館 朝日新聞社
大學生 400円
高大生 400円

 神戸市立博物館

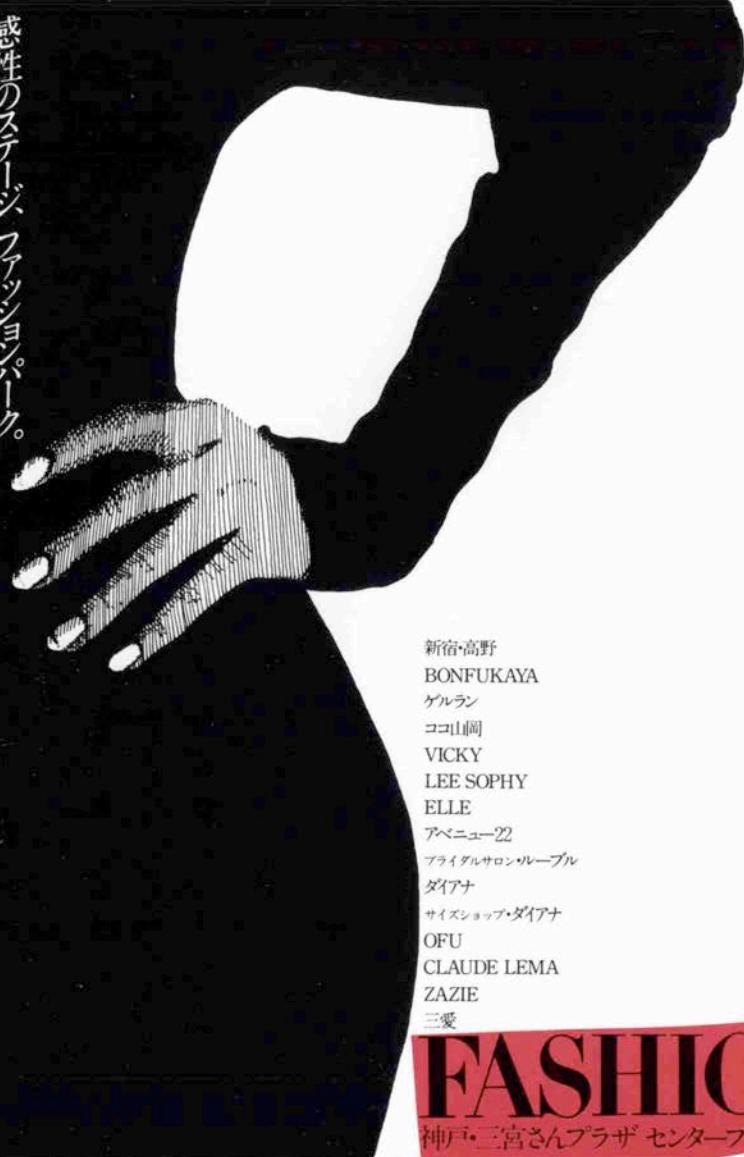
神戸市中央区京町24番地

☎ (078) 391-0035

■国鉄「三ノ宮」「元町」から南へ徒歩約10分
■阪急「三宮」阪神「三宮・元町」から南へ徒歩約10分



感性のステージ ファッションパーク。



新宿・高野
BONFUKAYA
ゲルラン
ココ山岡
VICKY
LEE SOPHY
ELLE
アベニュー22
ブライダルサロン・ルーブル
ダイアナ
サイズショップ・ダイアナ
OFU
CLAUDE LEMA
ZAZIE
三愛

FASHION PARK
神戸・三宮さんプラザ センターブラザ3F

営業時間——am11:00~pm8:00
PHONE——078633291698

都会に合う男のジャケット



JACKET 麻100% ¥42,000
PANTS 麻100% ¥16,000
SHIRT ¥6,800

JACKET 綿+麻 ¥33,000
SHIRT ¥6,500



本部/中央区三宮町1丁目6-22(ニューセンター7F) (078) 392-1651

三宮本店/三宮センター街 (078) 391-0895

フレザーショップ/トアロード (078) 391-0896

ドルチェマック/三宮センター街 (078) 332-0141

京都店/藤井大丸2F (075) 211-0857

姫路店/FESTA 2,3F (0792) 89-4738

宝塚店/宝塚南口サンビオラ3F (0797) 71-4830

☆私の意見

世界一の 展示内容を持つ

鳥居
幸雄

△神戸海洋博物館館長▽



神戸港は開港一二〇〇年を迎えます。と申しますと神戸港の歴史そのものが一二〇〇年かと思われる方が多いと思います。実は一五〇〇年も前から栄えた港で、武庫水門・大輪田泊・兵庫津と名は変りましたが、日本の港では最も古く名門中の名門であります。徳川三〇〇年の鎖国があつたため、歐米の港に比べて対外開港が遅れて開港一二〇年となつた訳です。

さて大阪には、豊臣ファンの文化人を中心に、徳川ののしる会というのがあって、鎖国したことを始め徳川の思い切り悪口を言う一日があると聞いています。どうも私の姓も鳥居ですから先祖が多分徳川の足輕ぐらいだったでしょう。何となく非難されるグループに入つて、るような被害者意識をもつていています。鎖国がなければ、神戸港はもっと栄えていたのになんて思つていてる市民もおられるでしょう。しかし安心下さい。遅れを取りもどす神戸っ子の反発力で、この一二〇〇年間に港は世界最大のコンテナ港になりました。さらに、六甲アイランド・ポートアイランド第二期と施設が増えて発展し続けていきます。

また、メリケン波止場にはメリケンパークが完成し、立派な海洋博物館が四月末にオープンします。展示内容は世界一だと自負しております。少しご紹介しますと遣隋、遣唐使の時代から現代までの歴史コーナー、世界の港の紹介、諸外国の民族船、港の荷役、造船コーナー、未来の船等の展示があります。そして展示物の殆んどが動き、話しかけてきます。またホールには真珠、宝石でちりばめたバールシップKOB Eが大勢の人目をひくでしょう。

メリケンパークは神戸港を一望に見て、日本で初めて神戸に上陸した映画の碑（メリケンステージ）もあり神戸市民だけでなく日本中から楽しむための客が訪れるごとであります。さらに近き将来神戸沖に空港も実現する計画になつております。

どうか皆さん神戸港に拍手を贈ってください。

美しさには理由があります(4月)



拝啓 カーデガン 美人殿

春はカーデガンの季節です。実用的な、春の防寒着という感じではなく、もっと積極的にカーデガンのおしゃれをお楽しみください。おもいっきり明るい色、カシミヤなど軽くて暖かい素材、オーソドックスなデザインのものをシンプルなシャツやフラウスに組合せるのがイキです。着た後はハンガーにかけるのはもちろん、たまには、夜、お風呂場にしばらく吊してウールを元気づけてやりましょう。よごれたらもちろん早めにクリーニング。おしゃれと清潔はきりはなせません。



Since 1933

本社／神戸市灘区記田町1丁目2-16
078-851-2440

- 大阪支社/06-853-1332 ■ つかしん店/06-420-3754 ■ ローブ・ニシジマ/078-332-2440
- 山手店/078-221-2440 ■ 宝塚店/0797-72-0810 ■ リフォーム・フルフル/078-221-9110

Elegant Summer Wedding



7・1wed. ~ 8・31mon.

夏の特典、いっぱい

厳やかに、華やかに、
佳き日の祝典を洗練されたサービスで。
オリエンタルホテルのサマーウェディングは、
この夏結ばれるおふたりに、
謝恩をこめたプランでご案内いたします。



オリエンタルホテル

神戸市中央区京町25 ☎ (078) 331-8111

隨想



絵／細川勝「帰郷」

四月、そして「こうべ」

山西 史子
△随筆こくべ同人▽



グ。生き生きと魅力的で、田辺聖子さんがエッセーで語る神戸の女、そのものだった。私の胸の中で、「こうべ」への憧れはますます増殖していった。尼崎に住む姑は、いつかは神戸へ帰りたいと口癖に言っていた。

五年前の四月、須磨に越して来た。夫の生まれ故郷である。泉州から明石海峡まで、目の下に広がる海の光景に、とうとう「こうべ」の住人になるのだと涙が出るほど感動した。

難病で身動きも不自由になっていた姑が、長兄に抱かれと、心底思つた。「ミス神戸」

だったと聞いたのが、「こうべ」への憧れの最初だった。

夫の母に初めて会つたのも四月だった。美しい人だった。顔立ちだけでなく、おしゃれでセンスがよかつた。神戸育ちで「神戸つ子」を自認し、誇りにしていた。「こうべ」はやっぱり、美しい女の街なのだと思った。

「神戸はほんとに、ほんとにいい街よ」

姑は涙を流し、自分のことのように喜んでくれた。離宮公園の桜が満開の日だった。

翌年の正月に医師から、姑の死期が近いことを告げられた。臓器のほとんどが機能を失っていた。酸素テントの中

であえぎながら、「寒いと葬式に来てくれての人に迷惑がかかる。四月まで頑張つて生きとうから」と言い続けた。

「こうべ」は幼いころから憧れの街だった。青い海、行き交う船、白い異人館、そんなイメージの中にはいつも美しい女の人があつた。

昭和二十年代、尼崎に住んでいた。その辺りの女達はたいてい洗いざらしの服を着て、黒い髪を引つ詰めていた。小学四年生のときだったが四月、転校生があつた。満

姑は働き者でしっかり者、好奇心満々の新しいもの好き、遊び上手でチャーミング

花たちが咲き始めた四月、

姫は眠るように静かに逝つた。花を愛し、どんなときにも身の回りから花を絶やすことのなかつたひとを、とりどりの花に埋めて送つた。神戸に眠りたいとの遺言通り、須磨寺に分骨した。

六度目の、神戸の四月を迎える。耳障りでたまなかつた神戸の言葉が、最近は気にならない。こうべの女に近づいたとほくそえんでいる。が姑は天国で笑つてゐることだろう。「住んどうだけやつたら神戸の女よ。いい女にならんと「こうべ」の女とは言えへんよ」

神戸・

春夏秋冬

田中 美和

▲画家▽

神戸は六甲の連山と海との間に狭まれた土地であるから、いつも山と海を意識する事ができる。この街には2本の私鉄と国鉄がそれぞれ平行して東西に走つてゐる。これらの電車に乘る時、山側の座席に座るか海側の座席に座る

かで目の前に展開する風影が全く異なつてくる。山側に座れば海を、海側なら山を見る事ができるからである。

又この3本のうちどの電車に乗るかで、山や海の見え方も違つてくる。例えばそこに生えている木々の様子、生え方や一本一本の色の違い、形の違い等身近に伝わつてくる。木々の輪郭でリズム付けされた山の稜線が走るにつれて遠くなつたり、近くになつたりするのを目で追うことができる。山が遠のいたり、急に近づいてきたりすると、山と自分との距離を感じ新鮮な驚きを与える。とにかく山は身近に感じられて、山の呼吸しているのが直に伝



‘87アートナウ会場の作品の前で

わつてくるようと思える。ところが浜の方を走る電車に乗ると、山は、ずっと遠くに退いて、手では触れられない様な少しよそよそしい感じになる。しかし稜線は長いストローアークで見ることができ、山はあんなに大きく広がつていたのだという事を認識させてくれる。また山と自分との間の距離を思うと、その間に広がる空間の量に圧倒させられる。そして東西に長く伸びる稜線は緩やかに、またある時は複雑に空を切りとつていく。この様な見え方の違いは海を見る時でも起る。ただし山を見る時と、乗る電車の走つている場所が逆になるけれども。

私は神戸に住んでいて良かつたと思うことの一つに、季節の変化を六甲の山々で感じ取れることがある。通学、通勤といつも電車に乗っていたが、その時毎日山に接することができた。春、光りも明るくなつて気分が浮き浮きとしてくる頃、今まで静かに眠つていたような山の肩から、びっくりするような若葉

の色が目に飛び込んでくる。

それからどんどん山にはエネルギーが満ちていって、初夏の頃にはその木々の色、葉の勢いに圧倒させられるようになる。充実した夏が過ぎると、透明な秋がやってくる。

この季節には本当に多くの色が見えてときどきとする。やがて山は木の葉が落ちて、ひとまわり小さくなり柔かい灰色に包まれてくる。山の稜線には、葉の落ちた木々が連なって見え、それは山に優しい輪郭を与えている。私は部屋に居て画面を前にしてイメージを脳裏に浮かべようとする。それは山から与えられるいろいろな感覚が生きているのだと思う。

「綺麗」な絵 「美しい」絵

細川 勝
△社団法人示現会会員



私の作品は、一見写実で、緻密な描写による心象風景が多い。

「綺麗な絵ですね」と言わることが多々ある。

「美しい絵ですね」とはあまり言つてもらえない。誉められているのか、くさされているのか、どうも釈然としない。言つてる人の気持を詮索したくなる。

「綺麗」な絵と「美しい」絵とは、味噌のコマーシャルではないが感覚的に一味ちがうと私は判断している。人の心に残る、訴える、詩のある「美しい」絵を描きたいとは考えるが「綺麗」な絵を描こうとする気持は微塵もない。

「綺麗」を参考までに角川の新国語辞典でひいて見ると、「綺麗」とは、「美しい」と「綺麗」とは、一、美しいさま、二、清潔なさま、三、な手、三、潔いさま、三にあきらめなさい、四、残りがないさま、勘定を三に済ませるとあり、また、綺麗事名として、一、手ぎわよく仕上る、二、体裁だけで実質のないこと、三、汚れないですむ仕事、云々とある。

どうも「綺麗」と言う言葉の持つ意味そのものも、活用も豊富で深い感性のある用語

とは、とらえられない。別な表現をするならば言葉に哲学がない。むろん「美しい絵ですね」と言葉が返つては、おもわずその人の素晴しい感性を垣間見たようで、その人が女性であれば一段と「綺麗」に、いや「美しく」感じるのである。

おそらく大方の人は、「綺麗」と「美しい」は同義語に解釈され、私が意識しているほど、神経質に用いられるとは考へられないで安易に受けとめてはいる。

しかし、その内の何人かでも、「綺麗」という言葉を私が感じると如く、意識して使われているとするならば、シヨックである。

私の力量がたらぬものと謙虚に受けとめなければならない。

それだけに、私は「綺麗」と思われる傾向の作品にふれるときは慎重に言葉を探すのである。

親バカ、ネコバカ

三枝和子 作家 え・元永定正

実は、私、テレビを観るネコがいる、という話は、眉唾ものだと、長いあいだ思っていたのである。そりや、画面がちらちらすれば、動くものが大好きなネコのことだから、きょろきょろぐらにはするだらうけれど、それは何も、テレビでなくつたって、鼻先でハタキを振つてやるのと同じことだと考えていた。

それというのも、うちの歴代のネコたちは誰もテレビに関心を示さなかつたからである。もちろん、飼主がテレビ嫌い、ということもある。加えて、環境が自然に恵まれているから、山野を駆けめぐり、野ネズミや野鳥を狩る面白さを知つてるので、テレビがちらちらしたぐらいではウレシがらない。時折、足を停めて、ちょいと眺めたりはするが、フン、と通り過ぎるネコが多かつた。ところが最近になって、この私の考え方を訂正しなければならない事態があらわれて來た。うちの歴代のネコのなかでは、最も頭が良いアカネがテレビを観はじめたのである。(アカネの頭の良さについては、すでにあちこちで書き散らし、大方のヒンシュクを買つてあるのだけれど、それにもめげず、またもや書くのである。)

ちょっと話がそれるが、このアカネについては、ちよつと話がそれるが、このアカネについては、私が東京の仕事場へ出かける留守のあいだ手伝いに来てくれる妹が、私以上に溺愛していて、私と二人でアカネの頭の良さをほめちぎるものだから、とうとう末の妹が腹を立てたことがあつた。

私たちには三人姉妹だが、私は子無し、二番目の妹は独身、末妹だけが子持ちである。この末妹の親バカについて、二人の子無しの姉たちが、ケナすものだから、彼女は常々フンマンやるかたなかつた。それに二人とも教師歴があり、理論的に、末妹の過保護ぶりを弾劾するものだから、いつも立つ瀬がなかつたのである。おまけに二人して、彼女の最愛の息子より、アカネの方が頭が良い、みたいな口ぶりなので、カッと来らしい。

「あんたたちは、私のことを親バカ、親バカといふけれど、それなら、あんたたちはネコバカよ。アカネは過保護ネコよ。」

なるほど、もつとも。

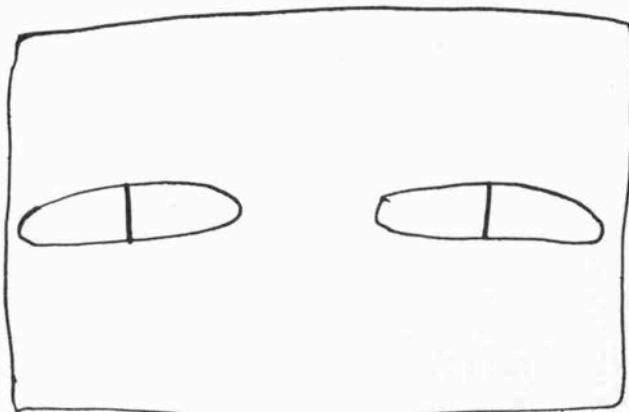
しかし、二番目の妹は納得しなかつた。人間は過保護になると駄目になるが、ネコは構つてやれば構つてやるほど賢くなる。ホントかなあ。私は半信半疑だったが、この溺愛のせいで、アカネはますます人間ふうになつていつた嫌いなきにしもあらず。しかし、現在いる三四のネコのなかで

は、狩の才能は抜群だから、人間ふうになつた、といつても、野性が失われているわけではない。抱かれて膝の上にあがることなど決してしないネコである。ただ、妹の弾くピアノの、モーツアルトでは気持ち良さそうに眠るけれども、ムソルグ斯基などが響きはじめると、ぶい、と部屋を出て行く、くらいに人間ふうなのである。

このアカネが、いつの頃からか、NHKのタモリのウォッチングに興味を示し始めた。最初のうちは、時折、テレビの裏へ廻って覗いたりしていが、すぐに画面だけを愉しむようになった。一番好きなのは鳥で、このときはテレビの真下まで駆け寄り、首が痛くならないかと思うほど仰向いて、文字通り、息を呑むようにして観ている。そ

なかでも凄かつたのは、先日のBBC制作「北極熊の王国」であった。NHK放映なので、コマーシャルはないし、その上、解説の人間も出なかつたので、丸四十五分、休みなしの興奮のしっぱなし。シカは出るは、キツネは出るは、鳥も空を飛ぶだけでなく、彼女が大好きな地上をちょんちょん進んで行く状態や、雛の巣立ちなどを映してくれるものだから、もうわくわくしているのが、側で見ていてよく分る。さらに北極ウサギが、後肢だけで独特的の跳び方をするのには感動したらしく、テレビの画面に前肢をかけて眺め入つていたと思ったら、ネズミが出て来た。穴に出入りする様子を両眼を精いっぱい開いて、何故か、鼻の頭まで、赤くてらら光らして見つけて、最後に、ネズミの顔が大写しになつたとき、フウッ、と溜息みた的な呻り声をもらした。その気持の変化を、詳細に観察していたが、豊かな感受性である。

末妹には悪いけれど、パソコン漬けになつて、表情から生き生きとした感情表現が失われてしまつて、彼女の息子よりは、少なくとも感受性においてはアカネの方が上である。もつとも彼女の息子、というのは私の甥っ子だから、他人ごとではないのだが……。



5. Motonaga '82

味の、いるやと

文・岡部伊都子 絵・石阪春生

大阪のあくに沈んで、他の土地の空気を知らなかつた者が、複数生活からころがりでたついでに神戸へころごると「おむすびころりん」。母と二人の生活は、住吉柳の浜近く、姉の持家へ住まわせてもらつて、始ましたのでした。

何の素養も学歴も無い上、虚弱な体质。いつたい、どうして生計をたてようか……と、不安でした。ただ、六甲山と、住吉の浜とをかけぬける風のさわやかな軽さ。誰も見つめない気の明るさ。あの柳の家で、無名ライターの放送原稿が綴られ、それが『おむすびの味』となつて、それからでもすでに三十一年も、仕事を続けさせてもらいました。神戸の土地柄のお蔭で、多くの神戸人に助けられたからです。思い出はたくさんあります……、神戸では満十年間の住まい、京へ移つてもう二十二年経ちますから、「今は昔」、話も味も、古典になつてしまつたかも知れませんね。

柳の家から「神戸への旅」をして、オリエンタルホテルや、国際ホテル、また、六甲山上のホテル（まだ一、二軒しかありませんでしたよ）に滞在して、おいしい料理を味わいました。大阪の味とは異なる欧風のセンス。とくに、いさか無骨に思われるほどのキングス・アームスの雰囲気が気れて、たのしい夕食でした。「すっかりごちそうに

に入つてました。

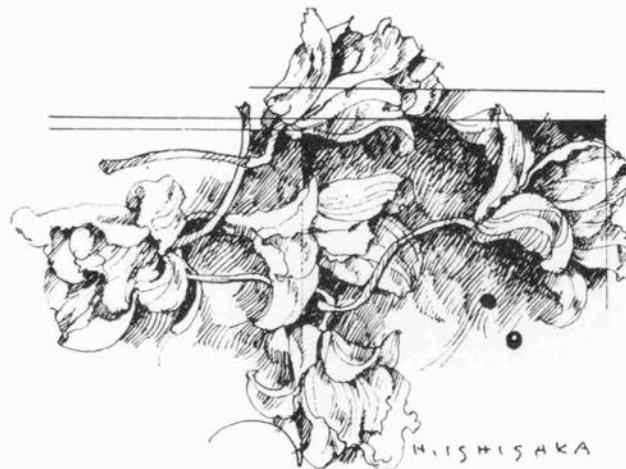
いつか、関西汽船の取材で知り合つた札幌の男性をジャーナリストと一緒にこの店へお連れしたら、大変。「こんな店が札幌にほしい」と、一旦帰られてから又、ゆっくり写真や料理のためにやつてこられたそうです。

三年間うちで一緒に暮してくれた姪がブラジルへ発つ時、見送りの方々とはいつたのもこの店でした。いつ行つても、あまりわざわざお人がいらっしゃらないのが（お店には申しわけありませんが）わたくしにはありがたくて。

亡き足立巻一氏との最後のお別れも、ここの人々で見てまわりました。そしてキングス・アームス。自分の休息感をいいことに、お二方にも同じものを強いたのでしたが、「ここは初めて」の新宮氏も「これが正直なローフトビーフという感じ」とおっしゃり、お店では足立氏ご来店をよろこばれて、たのしい夕食でした。「すっかりごちそうに

なって」と言わされたガード下でのお別れが、そのままになってしまったなんて、残念でなりません。青辰へ連れていって下さったのは宮崎修二朗氏で、「こんなおいしいあなごすしが」と驚いたものでした。以来、人前をもかまわず、「おいしそう」にぱくぱく食べる癖がつき（おのりがなかなか強いので）、椎茸のたき方や、卵の焼き方を古代から学びました。母が病臥すると、きれいな蓋物を持っていって、ちらしづしを入れてもらつたこと、母がうれしがつたことなど、忘れられません。ありがたいことに、現在でも神戸ではこの二店が心のふるさとになっています。

時代も、わたくし自身も、食べもの歩きがそう多くできないころでした。とくに自分で自分の口



△筆者紹介△

神戸では牛肉が良く、お魚が新しく、洋風料理を客人にもてなしましたが、京では野菜、生麩、豆腐、湯葉などが主のお箸料理。さすが、加古川のあなごの香りはすばらしく、時折り、神戸の知人方が送ってくださると、しばらくあなごで暮します。古典だけれど、永遠に新しい口の福分。どうか神戸の香りをお大事に。さようなら。

第一樓や、糸平さん、蛸の壺、竹葉亭、正家そば。フロインドリーブや、ユーハイムもなつかしい。ドンクは京都にたくさんできましたので、脳かです。

第一樓や、糸平さん、蛸の壺、竹葉亭、正家そば。フロインドリーブや、ユーハイムもなつかしい。ドンクは京都にたくさんできましたので、脳かです。

に合うものを作ることに情熱をもつわたくしには、トアロード・デリカテッセンの自然の香りゆたかな数々の作品が神戸時代も現在も欠かせません。スマート・サーサン、あわび、生ハム、とても書き切れない宝ものが、京風に姿をかえて客をたのしませ、自分は無難作にバクバク食べてニンマリしています。

いわゆる「味の旅」をしているゆとりがなくて、じつと一時余も立つて並ぶのがしんどいのですが、いか須田魁太画伯から、「老祥記」の小ぶりの豚まんをいただいて、大ファンとなりました。あれなら一度に五個くらいは。「並んで買つたよ」とのご好意あつたれはこそ。そののち一度並んで持てるだけを求める、知人にあつあつをくはつて歩いたのですが、京からは遠くて残念です。体力、気力が弱る一方ですから。

一九三三年大阪に生まれる。相愛高女を病氣中退。
一九五三年以降、文筆生活にはいる。著書には「抄本おむすびの味」「美をもとめる心」「二十七度窓」「西茂川のほとりで」「優しき出逢い」など70余冊。

宝塚とシャンソン

中元清純

△宝塚歌劇団理事▽



今年はモンパリ生誕六十周年ということから、「宝塚とシャンソン」というテーマを与えられました。私は昭和二十七年に宝塚歌劇団に入団しましたが、そこで幸運にも演出家の高木史朗先生に出会い、最近亡くなれるまでの三十数年間ずっと先生の作品の音楽を作つて参りました。その間、やはり故人となられた蘆原英了先生を知り、シャンソンにバレエに先生から教えられた事を、私の一生のよろこびと思つております。これからお話しする宝塚とシャンソンの事柄は、両先生から得た知識が中心になっている事をはじめに申し上げておきます。

レヴュー「モンパリ」は、岸田辰弥が欧米帰朝第一作として昭和二年に初演した日本最初のレヴューである。幕なし十六場はスピード一デーな舞台転換のノンストップレヴューであります。又、フィナーレに大階段が使用され、ラインダンスがあり、当時としては画期的な事でお客様は大いに驚き喜ばれたということです。レヴューモン・パリの主題歌は、ずばり「モン・パリ」と舌うフランスの曲であります。リッシャン・ボワイ工作詞、ジヤン・ボワイエとヴァンサン・スコット二人の共作で一九二五年、当時あつたパラースというミ

ュージックホールで上演された「パリののぞき穴」というレヴューの主題歌として主役のジャーヌ・ピエルリが創唱したワンステップの大へん調子の良い曲であります。内容は昔のパリをなつかしみ礼譜するもので——昔のパリはメトロもなかたし、バスもなくパリは大きな村のようであつた。ああ、わたしの村は美しかつた。わたしのパリ、われわれのパリ——と言う内容のものであつたが、岸田辰弥自身の作詞で——「うるわしの想い出モン・パリ・わがパリたそがれどきのそぞろ歩きや……etc」となつた。そしてこの曲は素敵な唄、美しい唄ということになり、フランスの唄は何と甘く美しく調子のいいものと言うような事で、日本に初めてシャンソンが紹介されたと言つて良いと思う。あの悲しい戦争の後、昭和二十一一年四月に宝塚大劇場再開、そして私は昭和二十七年六月公演グランドレヴュー「シャンソン・ド・パリ」を観て歌劇団に入団しました。この作品は高木史朗先生のフランスより帰朝第一作のパリみやげ公演で、題名どおりパリのシャンソンが次々と紹介され、戦後のすんだ空氣の未だ残つてゐる世間や若者達に夢と希望を与えてくれたすばらしいレヴューであります。「ラ・メール」「ラ



▲昭和2年「モン・パリ」

◆昭和35年「華麗なる4拍子」唄／故明石照子
(写真・宝塚歌劇団提供)

・セーヌ」「枯葉」等がこのレヴューで発表され、戦後再びシャンソンブームを巻き起すきっかけとなつた。そして昭和三十五年「華麗なる千拍子」の上演となり高木先生の代表作とも言えるこのグランドショウは芸術祭文部大臣賞を受賞しました。この作品の制作にあたつて、多くのシャンソンを蘆原英了先生からいただいた。東京は代々木初台の先生宅で朝から晩までシャンソンのレコードを聞いてその中から、「幸福を売る男」の曲を主題歌として選ぶ。この曲はシャンソンの友といふ九人の男声ボーカルグループによって唄われヨーロッパより大流行して行つた曲で、このメンバーのジャン・ブルッソールが作詞、ジャン・ピエール・カルヴェが作曲、ラテン系チャチャチャのリズムに乗つたヒット曲で、幸福を売つて歩く歌手の生活が唄われている。——悲しい時に明るい歌を涙のほほに笑顔の歌を……高木先生の作詞で明石照子、寿美花代、中心に那智わたる、如月美和子、内重のぼる、楳克己と次々に唄いつがれたこの歌は今でも耳に残つてゐる。

さてこの編曲に際しては原曲のシャンソンの友のオリジナルを中心として、後半の盛り上げは、ジョセフ・フィン・ベーカーの唄うアフロリズムの編曲を参考に又、ダンス場面ではフランク・ピールセル演奏のレコードと変化をつけるのに工夫をこらした。蘆原先生は編曲の重要性を私に教えて下さつた。このグランドショウのタイトル「華麗なる千拍子」はジャック・ブレル作詞作曲による

La Valse a mille temps よりとられてゐるのではありません。この曲も蘆原先生より寿美花代にどうだろうと言

どんな曲でも何でもこなす……

トスカニーニが聞けばたまげる

リストもラベルも俺らの友達なさ

冷たい浮世の風も何くわぬげによ

朝から晩までただピアノをたたいている——

明石照子はこの歌を見事に芸達者に唄った。同

じレオ・フェレ作曲になる「ジャズバンド」はジ

ヤズ礼讃歌である。これを寿美花代が飛んだりは

ねたりしながら——お聞きよジャズバンド すて

きじゃないかよ 心もはずんで若い血はもえるよ

——と唄い出す。寿美花代はすっかりレオ・フェ

レのファンになり以後彼女のレパートリーには必

ずレオ・フェレの曲が入っていた。NHKの紅白

歌合戦に初めて出演した彼女はこのジャズバンド

を唄いました。他にレオ・フェレの曲で有名なのは「パリ野郎」で今も宝塚の生徒達によつて歌い

つかれてています。「夜霧のモンマルトル」は高木

史朗作詞、そして私が作曲した歌ですが、これは宝

塚のオリジナルシャンソンとして「華麗なる千拍

子」の受賞公演が加えられ如月美和子が唄い好評

でした。——モンマルトル モンマルトル 夜の

街は 霧につつまれ 泪にかすむ ほのかなネオン

も 夢見る様に メランコリックな街の響も——

この様に「華麗なる千拍子」の作品の中で多く

のシャンソンが唄われて来ました。「シャンソン・

ド・パリ」にはじまり、「ボンジュール・パリ」

「ブーケ・ド・パリ」「シャンソン・ダムール」「

「ウイ・ウイ・パリ」と続き、「華麗なる千拍子」

こそ、最も多くのシャンソンを日本国中に紹介し

——俺はピアニスト 三文ピアニスト



昭和35年「ウイウイ・パリ」「夜霧のモンマルトル」唄／横弥生（写真・宝塚歌劇団提供）

手づくりケーキを創つて ハワイへ行こう！

ポートアイランド／ゴーフル・ポートピア88で

5月5日第1回アマチュア手づくり洋菓子作品展

ゴーフルでおなじみの神戸風月

堂（本社元町三／下村光治社長）

が、昨年ポートアイランド・ファ
ッションタウン内に建てた“ゴー
フル・ポートピア88”で、5月5
日の子供の日に第1回アマチュ
ア手づくり洋菓子作品展＼を、3
階のゴーフル劇場と4階のソレイ
ユホールで午後1時から開催する
ことになった。

この日は神戸風月堂の感謝デー
のゴーフルデーにあたる。昭和2
年からの和菓子づくりの伝統と、

洋菓子づくりのハイカラの精神で
創りあげたゴーフルは、長年、日本
茶にも紅茶にも合う神戸の名物と
して愛されてきている。このゴー
フルを“5のフル”と考えて昭和
55年5月5日を“ゴーフルデー”

と名づけて顧客への感謝デーとし
たもので、この第1回アマチュア
手づくり洋菓子作品展も、顧客へ
の感謝と、作品展を通じて洋菓子
文化の創造性を深め、お菓子ファ
ンを増やそうというもの。

日頃、お菓子の好きな神戸っ子
は嬉しい大ニュース。ふるつて
応募を！

と、副賞にハワイ旅行が贈られる
というスイートな企画。



特賞はハワイ旅行神戸風月堂のハワイ店



第1回ゴーフルデー“アマチュア手づくり洋菓子作品展”

として名高い神戸のアマチュアの
方々に腕をふるつても、自慢の作品を出
品して審査し、優秀作品には、メダル（ゴー
フルを型どつたもの）

■審査委員長 下村光治社長
■審査日時 5/5 (10:00-12:00)
■賞品 社長賞・ハワイ旅行とメダル／ゴー
フル賞・食事券他。参加賞、ゴーフル（30
0円）,88 テレホンカード風呂敷
■お申込み 神戸風月堂本社／営業推進部
〔第1回アマチュア手づくり洋菓子作品展係〕
8 (32) 5 5 5 5

■審査委員長 下村光治社長
■審査日時 5/5 (10:00-12:00)
■賞品 社長賞・ハワイ旅行とメダル／ゴー
フル賞・食事券他。参加賞、ゴーフル（30
0円）,88 テレホンカード風呂敷
■お申込み 神戸風月堂本社／営業推進部
〔第1回アマチュア手づくり洋菓子作品展係〕
8 (32) 5 5 5 5